

ルイスクビナガハムシの分布

(兵庫県甲虫相資料・309)

高橋寿郎

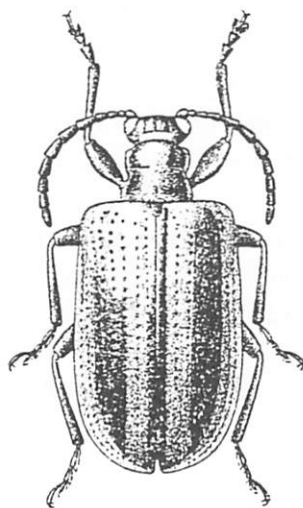
1937(昭和12)年当時学生であった筆者は、その前年東京農大の神谷一男・安立綱光両先生によって設立された甲虫同好会に入会させて頂いた。そしてその会の機関誌"日本の甲虫"創刊号が1937年に送られて来た。その第1頁に美しいカラー図版(関口俊雄画伯の健筆による。関口画伯は1995年2月84才で逝去された由)があり神谷一男先生による"日本産甲虫類図譜"なる解説論文がついていた。このカラー図版にはハムシが3種描かれていて、どれも美しいもので筆者にしても初めて目にするハムシであり、その美しさには是非自分の手でこれらハムシを採集したいものだと思つたものである。残念ながら戦前にはとうとう採集することが出来なかったのであるが、終戦、シベリアから帰国後再び昆虫採集にノメリ込んでゆき、お陰さまで其処に図説されたハムシは3種とも採集出来た。図説されたハムシ、キオビクビボソハムシ、ルイスクビナガハムシ、セボシハムシ(ワモンナガハムシ)のうちキオビクビボソハムシが一番多く見られるようで次いでワモンナガハムシとなり、ルイスクビナガハムシが兵庫県下では一番採集が難しい種のように思われる。このハムシは本州と四国にだけ分布が知られている種で、全国的に見てもそう普通に見られるハムシのようでもなさそうである。そこで筆者の手許にある文献で本種の日本での分布状況を調べてみた。同時に兵庫県下での分布状況についてもまとめて見ることにした。何分にも貧弱な筆者所有文献からの収録であるから多くの各地での産出記録が抜けていることを危惧している。御教示して頂ければ幸いである。

また本文を草するに当たってはハムシに関しての論文別刷を多数御患与下さり、常々御指導を頂いている中條道夫博士、木元新作博士、大野正男教授(ABC順)にあつく御礼を申しあげさせて頂く。

この種は Jacoby(以下敬称略)により G.Lewis

の第2回目の日本訪問採集旅行において得られたる"Nikko. A single specimen"によって図をつけて *Crioceris lewisi* Jacoby として記載された種である(1885)。

日本人によってこの種が一番初めて記録されたのは、大野正男によると矢野暁泉が伊吹山からイブキミスジハムシとして記録されたものであると(1906)。1915年には鈴木元次郎の記録があるようだがこの文献を見ていないので何処産のものかわからない。



Lilioceris (Brodyceris) lewisii (Jacoby)

ルイスクビナガハムシ

S.Kimoto, Jour. Fac. Agr. Kyushu Univ. 13(1):127, 1964
より

土井久作は松村松年が中禅寺にて得たという記録をしている(1926)。

1930年には横山桐郎は黒条のない個体でカラー図説をされた。1933年の中條道夫博士の記録では、

Japan proper (Honshu) と分布はあり産地の記録は今迄のものだけである。

名和梅吉も1935年伊吹山から1頭得たと記録している。神谷一男は始めに記したように1937年大変美しいカラー図説をされるとともに、産地として奥日光尾瀬沼、大和大台ヶ原山、伯耆大山を新しく記録された。土井久作は愛知県犬山木曾川沿岸にてキボシの葉を食し且産卵する、個体数も相当いと記録(1938)。

1938年には福井県吉田・今立産のカラー図説も現れた。岩本新一は兵庫県氷ノ山、広島県の三段峠を記録した(1940)。戦前での本種についての記録は大体以上のような状況であった。

戦後一番初めての記録になるかと思われるが四国剣山の見の越(大剣社)において、四国未記録種と考えられるとして伊賀正汎は記録(1947)、この標本は後藤光男による原色図説がある(1955)。四国からは宮武睦夫・小林 尚が皿ヶ嶺、面河溪を1950年に記録している。

中條道夫は本種が小楯板沿いの短い点刻列が無い特徴から本種をタイプに亜属 *Bradyceris* を創設された(1955)。

四国の記録はその後石原 保他による"石鎚山と面河溪の昆虫相"の中に見られ(1953, Omogo Val. Mt. Omogo, Tsuchigoya)、矢野俊郎によってまとめられている(1964)。即ち、徳島県: 剣山、見の越。愛媛県: 皿ヶ嶺、面河溪、土小屋。四国からは坂口滑一によって高松市紫雲山の記録もある(1989)。

中條道夫は伯耆大山から記録をした(1954)が、大山は戦前既に記録があり、他にも佐藤清明も記録している(1958)し、木元新作も記録している(1964)。

中條道夫は1956年佐渡島から記録された(1956)。新潟県での記録はその後大野正男(1968)、馬場金太郎(1972)、木元新作(1964)のものがある。

山形県では、飯豊連峰が白畑孝太郎・黒沢良彦によってされている。

東北地方では保谷忠良による宮城県蔵王町山田

沢がある(1992)。

関東地方では原産地日光は別として栃木県安藤郡葛生町仙波(足利山地)、群馬県武尊山の記録を木附嘉男はしている(1975)。

石川県からも記録があり(1992)、神奈川県では小田原・箱根が平野幸彦によってされている(1981)。山梨県では南アルプス前衛西居峠(1955)、金峯山麓木賊峠である(1971)。

長野県では木曾駒ヶ岳(1964)、軽井沢(1964)がある。

愛知県、岐阜県、福井県と記録がわりとある。特に福井県は多いように思われる。次に記録地を記してみる。

福井県 福井市: 一乗谷、上志比村、勝山市: 赤兎山・三頭山、大野市: 小池・下打波・荒島岳、和泉村: 早稲谷、池田町: 檜俣、今立町: 権現山、武生市: 日野山、今庄町: 夜叉ヶ池、小浜市: 鬼ヶ谷(以上佐々治寛之、斉藤昌弘、1985)、(鬼ヶ谷、井崎市左門、1957)。

愛知県 犬山木曾川沿岸(1938)、東三河: 設楽町裏谷、鳳来町阿寺、富山村日本ヶ塚山、尾張: 犬山市木曾川堤、東三河: 豊根村茶臼山、稲武町西ノ木峠(以上、山崎隆弘・穂積俊文、1990)。

岐阜県 能郷白山から県北部に至る山岳地帯、飛騨東、高山市日影平、揖斐・本巢、能郷白山(磯野昌弘、1982)、藤橋村徳山地区冠山峠(長谷川道明ほか、1989)。

近畿地方では、滋賀県で中根猛彦の比良山(1955)、それに加えて木元新作の上北山村和佐又山~笹の窟(1971)、大野正男の伊吹山、湖東、湖西、比良山があり(1979)、特に伊吹山には多いとの記録もある(1967)。三重県では藤原岳が後藤光男によってある(1961)。奈良県は大台ヶ原が大野正男によって記録され(1970)、この記録は山下善平などの調査報告にも入っている(1972)。同じ山系になるのか Mt. Obakodake の記録を山本雅則がしている(1979)。京都府の記録が見られなかった。

鈴木元次郎の記録が京都のものであるのかどうか見ていないのでわからない(1915)。

和歌山県からは的場 頼のものが(1994)、大阪府からは箕面からの記録がある(1965、1967)が、ともに命名者は間違っているし始めのものには和名もなく、両方ともデータがついていない。後藤光男の担当であるから間違いないと思うが今一つすっきりしない。以上、近畿地方では山地帯に行けばお目にかかれる状況ではないかと考えられる。

最後に中国地方、即ち中国山脈をめぐっての地域であるが、岡山県と島根県の記録が筆者の調べた範囲では見られなかった。伯耆大山の記録は古くからあり(1937、1954、1958、1964)、産地としてよく知られた山である。広島県も古い記録(1940)もあれば最近でも中村慎吾他により産地がまとめられている(1994)。山口県は唯一、三好和雄、田中馨の記録(1988)しか見られなかったが、“7~8月、山間部及び山地”とあるからわりと多く産するのではないだろうか。これらから中国山脈をめぐっての地域には、恐らくこの種は分布している種になると考えてよいであろう。

さて、兵庫県であるが、ここも中国山脈の東端にあたる氷ノ山では、古い記録もありまた現在でも産しているのではと考えられる。その他の地は次に記すごとくわりと産地が知られていない。調査が足りないからかと思われる。

1972年当時兵庫農大生であった辻 啓介氏が氷ノ山に採集に行かれ、頂上で下から風で吹き上げられてきたのを採集したと8exs.を拙宅へ持参させて下さった(うち1ex.は頂いたがこの標本は現在人と自然の博物館で保管されている)。氷ノ山にはわりといるハムシのようである(ごく最近秋山美文・日暮卓志も氷ノ山-鳥取県側?から本種を採集している。1995)。

筆者は大河内町砥ノ峯で採集したことがある。次に兵庫県での記録を記しておく。

- 神崎郡大河内町砥ノ峯(1ex., 2.VII.1977).
 宍粟郡音水(1ex., 22.V.1965, K.Tsuji leg.).
 城崎郡阿瀬溪谷(高橋, 1978)
 養父郡氷ノ山(岩本, 1936., 辻, 1972, 高橋,

1978., 秋山, 日暮, 1935)(8exs., 11.VII.1972, K.Tsuji leg.).

美方郡扇ノ山(辻, 1963., 辻, 岸田, 1972., 磯野, 1985)

いづれにしても本州、四国に広く分布している美しいハムシであるが、意外と出会うことが少ないハムシのようでもある。食草はマイヅルソウ、ナルコユリ、ギボウシ類が知られており、木元新作、滝沢春雄によれば(1994)本州の中部山地では成虫は10月まで野外に見られると同時に幼虫についても図説されている(pl.92, Fig.4, pl.128, Fig.3,4)。(木元・滝沢の図説での本種の分布は本州、九州と間違っている、p.107。但し、p.273では Honshu, Shikoku になっている。)

<参考文献>

- 秋山美文・日暮卓志(1995) 山陰東部のハムシの記録。すかしば(41/42):15-18.
 馬場金太郎(1972) 新潟県北部、胎内川流域の鞘翅目。飯豊山塊、胎内溪谷の生物:195-240.
 Chūjō, M.(1933) Studies on the Chrysomelidae in Japanes Empire(III). Sylvania 4(1):19-56.
 Chūjō, M.(1951) A Taxonomic Study of the Chrysomelidae (Insecta-Coleoptera) from Formosa Part. I. Subfamily Criocerinae
 Tech. Bull. Kagawa Agr. Coll. II (2):71-120.
 中條道夫(1954) 伯耆大山の金花虫類。新昆虫7(13):24-26.
 Chūjō, M.(1956) Chrysomelid-Beetles of Niigata Prefecture, Japan, chiefly collectid by Dr. Kintaro Baba. 長岡市立科学博物館々報.
 Clavareau, H.(1912) W. Junk Coleop. Cat. Pars. 51. p.47.
 土井久作(1926) 日本産アカハムシ属 Crioceris に就いて。昆虫世界 30(346):172-187.
 土井久作(1938) 名古屋附近に産する二・三の注目すべき昆虫。昆虫研究 2(1):12-14.
 福井県博物学会(1938) 原色福井県昆虫図譜。p.14, f.39.

- 後藤光男(1955) 原色日本昆虫図鑑・甲虫編. pl. 21, f. 440, p. 69(保育社・大阪)
- 後藤光男(1961) 藤原岳の鞘翅目. 藤原岳の昆虫: 40-69.
- 後藤光男(1965) 箕面の鞘翅目(甲虫類). 箕面山の動物相調査ハムシ科 p. 204-209. (大阪府農林部)
- 後藤光男(1967) 箕面の鞘翅目(甲虫類). 箕面山の動物相調査(改訂版)ハムシ科 p. 165-170. (大阪府農林部)
- 長谷川道明ほか(1989) 旧徳山村地域の甲虫類. 旧徳山村(岐阜県)地域動植物調査報告書: 55-107.
- 平野幸彦(1981) 神奈川県産の甲虫. 神奈川県昆虫調査報告書: 233-372(神奈川県教育委員会)
- 保谷忠良・金澤理・佐々木元幸(1992) 宮城県のハムシ. 宮城県昆虫分布資料(宮城県仙台第二高等学校生物部刊)
- 伊賀正汎(1947) 四国剣山に於ける吉丁虫相に就いて. 近畿甲虫同好会々報2(2): 9-18.
- 稲泉三丸(1970) 栃木県から記録されたハムシ. インセクト21(1): 12-24.
- 井上義郷(1955) ルイスクビナガハムシの新産地. 新昆虫8(12): 38.
- 石原 保・宮武睦夫・久松定成・枝重忠夫・佐々木幸太(1953) 石鎚山と面河溪の昆虫相. 四国昆虫学会々報 Vol. 3: 5-137, 8pls.
- 磯野昌弘(1982) 岐阜県のハムシ類. 岐阜県の昆虫: 171-176, 491-505(岐阜県環境部環境保全係).
- 岩本新一(1940) レウスハムシ *Crioceris lewisi* の新産地. 昆虫研究4(1/2): 22.
- 井崎市左エ門(1957) 福井県の甲虫(2). 福井県博物同好会々報(4): 25-32.
- Jacoby, W(1885) Description of the Phytophagous Coleoptera of Japan, obtained by Mr. George Lewis during his second journey, from February 1880 to September, 1881. Part. I. Proc. Zool. Soc. London, p. 189-211, pl. XI.
- 神谷一男(1937) 日本産甲虫類図譜. 日本の甲虫1(1): 1-4, pl. 1.
- Kimoto, S(1964) The Chrysomelidae of Japan and the Ryukyu Islands II. Jour. Fac. Agr. Kyushu Univ. 13(1): 119-139.
- Kimoto, S & Hiura, I. A List of the Chrysomelid Specimens preserved in the Osaka Museum of Natural History I. (Insecta: Coleoptera) Bull. Osaka Mus. Nat. Hist. (7): 5-18.
- 木元新作・日浦勇(1971) 大阪市立自然科学博物館に所蔵されるハムシ類標本(第三報). Bull. Osaka Mus. Nat. Hist. (25): 1-26.
- 木村嘉理(1975) 関東地方におけるルイスクビナガハムシの採集例. ELYTRA 2(2): 26.
- 小阪敏和・村上貴望・角島幸二(1977) 広島県産甲虫ノート(8). 広島虫の会々報(16): 187-191.
- 的場 績(1994) 和歌山県産甲虫類既報の整理. KINOKUNI (46): 1-129.
- 宮武睦夫・久松定成(1960) 石鎚山系の甲虫類・石鎚山系の自然と人文: 109-116(愛媛新聞社・今治市).
- 宮武睦夫・小林尚(1950) 石鎚山系の甲虫類(第一報). 宝塚昆虫館報(73): 1-20.
- 三好和雄・田中馨(1988) 山口県の鞘翅目. 山口県の昆虫: 126-187(山口県立山口博物館).
- 中根猛彦(1955) 今年の成果・比良山. Nature Study 2(12): 8.
- 中村慎吾(1977) 広島県比和町とその周辺の昆虫類. 比和の自然: 255-294.
- 中村慎吾・秋山美文・木元新作(1994) 広島県産ハムシ科目録. 比和科学博物館研究報告(32): 69-101.
- 名和梅吉(1935) 日本産葉虫類に就いて(承前). 昆虫世界39(449): 2-7.
- 大野正男(1966) 広島県のハムシ相. すずむし16(1): 1-11.

- 大野正男(1967) 日本産ハムシ科研究の手引き(3).
昆虫と自然2(5):25-28.
- 大野正男(1968) 佐渡のハムシ相. 長岡市立科学
博物館研究報告(5):21-38.
- 大野正男(1969) 栃木県におけるハムシ研究の手
引き. インセクト20(2):1-8.
- 大野正男(1970) 大台ヶ原山のハムシ相. 関西自
然科学(22):21-29.
- 大野正男(1979) 滋賀県のハムシ相. 滋賀県の自
然(総合学術調査研究報告)p.757-777.
- 大野正男・鈴木富士子(1979) 山梨県金峯山麓の
ハムシ相. 千葉敬愛短大生物研究会々報(3):59
-79.
- 坂口清一(1989) 香川県産昆虫標本目録. 兼香川
県産昆虫目録. 85. 233p.
- 佐々治寛之・斉藤昌弘(1985) 福井県の甲虫相.
福井県甲虫目録p.207-221. 福井県自然環境保
全調査研究会昆虫部会編.
- 佐藤清明(1958) 伯耆大山の昆虫相(Ⅲ). すずむ
し 8(4):1-8. (ref. p.4-6)
- Schönfeldt, H.V. (1887) Catalog der Coleopte-
ren von Japan mit Angabe der bezuglichen
Beschreibungen und der sicher bekannten
Fundorte.
- 鈴木元次郎(1915) 花園昆虫研究所標本目録.
(花園昆虫研究所・京都)
- 白畑孝太郎・黒沢良彦(1970) 飯豊連峰の甲虫類.
飯豊連峰・総合学術調査報告. p.179-214.
- 高羽正治(1992) 石川県産甲虫類初出文献一覧表.
石川むしの会特別研究報告. 第6号:1-98.
- 高橋寿郎(1993) 伯耆大山のハムシに関する文献
目録. すかしぼ(39/40):1-8.
- 山本雅則(1979) 伯母子岳とその周辺の甲虫.
SAKAIENSIS 16(2):128-184. (大阪府立大学生
物研究会)
- 山下善平ほか(1972) 大杉谷および大台ヶ原山の
昆虫相ならびに樹上クモ類相. 大杉谷・大台ヶ
原自然科学調査報告書:195-285.
- 山崎隆弘・穂積俊文(1990) 愛知県のハムシ科.
愛知県の昆虫(上):434-460.
- 矢野晚泉(1906) 伊吹山登山採集記. 昆虫世界10
(8):328-333.
- 矢野俊郎(1964) 四国産既知甲虫類目録Ⅵ(多食
亜目Ⅴ). 松山昆虫同好会時報(27):1-119.
- 横山桐郎(1930) 続 日本の甲虫. p.1.2, f.15,
p.16 (西ヶ原刊行会・東京)
- (TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)

ハマベツチカメムシ

淡路島に産す 高橋寿郎

最近三好和雄氏は山口県から本州初記録として
ハマベツチカメムシ *Psammozetes ater* Distant を
記録しておられる(月刊むし. No.294, p.39, 1995).
筆者は10年程前兵庫県下のツチカメムシ類の分
布を中心にまとめを発表した(13種. PARNASSIUS

No.31, p.1-6, 1984)。その中でハマベツチカメム
シを淡路島津名郡鞆で愚妻が採集したlex. (20. VI.
1979)を記録している(標本は現在県立人と自然の
博物館に保管)。海浜植物の根際、或いはその附
近に多く見出される種といわれているので淡路島
では現在でも産するであろうと考えられるが、確
認は出来ていない。また、県の瀬戸内海側海岸線
での生息もあり得ると思っているが、海岸線の破
壊でその確認が困難である。

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)